

みやけの風

第 188 号

平成 16 年(2004年) 9 月 4 日(土) 発行
 発行：三宅島災害・東京ボランティア支援センター
 発行責任者：上原 泰男
 東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ 10階
 東京ボランティア・市民活動センター 気付
 TEL：03-3260-7573 FAX：03-5229-1646
 E-mail：tokyocenter@cmpo.org

住民説明会の日程が発表されました。「火山ガスとの共生」を前提に急ピッチで進められる帰島準備について不安を抱えている方も多いと思います。帰島するも帰島できないも第一には住宅問題が焦点です。ここが正念場ですから説明会には是非参加したいものです。

お詫びと訂正

みやけの風 187号で掲載の「三宅村在宅介護支援センター」介護者教室の問合せ先の電話番号が間違っていました。正しくは03-3459-8389です。お詫びして訂正させていただきます。申し訳ありませんでした。

みんなの声

いやな言葉に驚く?!

三宅島大噴火で足立区に避難してから、この秋には5年目に入る。早いものだと痛感する。俺の近くには、浅沼基氏(足立三宅会副会長・三宅島商工会)や浅沼要氏(足立三宅会花畑地区長)らがいる。やがてモミジが紅葉する頃には、帰島して店を開く準備を始める。頑張っしてほしい。

島で生れ、島で育った人たちだから、懐かしい帰島は飛びあがるほど喜ばしいことである。島の出身者でない俺ですら「帰島」の2文字を聞いた時は、ストレスが全身から消え去ったほどだ。縁あって島に終の棲家を見つけてからは、いとしい魅惑の常春の美しい島である。今もそのイメージは変わらない。

だが、その思いもつかの間、帰りたいならば「自己責任」で帰れと非情な言葉が島民に浴びせかけられた。驚いたのは俺だけではなからう。

馬鹿な?!「全員島外避難しろ」といわれて、着の身着のまま、なれない都会生活を余儀なくされ、長期避難生活に耐え忍んで頑張った多くの人たちは『帰島』の言葉を両手を挙げて喜んだ。懐かしいわが家に帰れる!その思いが深く沈んでいた気持ちを明るくしたことであろう。

だが、その気持ちを逆なでするような「自己責任で帰れ」とは、あまりに非情。政治家や官僚がよく使う嫌な言葉だ。

それならば、避難中、帰島を許さず、家屋は荒れ放題状態になってしまった責任は、誰が取るのか?避難指示の責任者の『責任』のほうが、はるかに重いはずである。

政治や東京都は、どうも自然災害の救済には冷たく、人的災害には温かい白状な責任者が多いらしい。『兆』のつく金をイラク派兵など見ても、気前よく人的災害につき込む。その金を三宅島の復旧復興に半分

でもよいから回してほしい。島民は大歓迎し、涙を流して喜ぶ。

特に、避難生活4年の間、足腰を弱めた高齢者が俺の周りには多い。帰島が実現しても、既設の特養ホームはおそらく入所者満杯だろう。願わくば、中央診療所近くにある大きな空き地に新たな特養ホームを造り、高齢者が安心して帰島できるようにしてほしい。それを望む者は多い。

俺も帰島すれば77歳。まだ元気である。だが、やがてお世話になりたい。申し込んだ時、「入れません」と言われたいよう、頼みます。(足立区花畑 細井 竹一)

今自分に出来る事

四年前の今日、こうして竹芝から三宅行きの船に乗った。あの時は、地震の怖さに自主避難という形で8月22日にはもう、島を離れた私だった。その10日後の9月1日に急遽出された全島民避難の指示に、私は慌てて地震で揺れ動く三宅島へ、貴重品等を取りに戻った。どうか無事に東京へ戻れますように、そんな思いで船に乗った事を思い出す。そして四年後の今夜もこうして三宅行きの船に乗っている。

でもあれから四年後の今夜は違う。来年二月の避難指示解除の方針が村長から出されて、ガスは大丈夫?島で安全に暮らせるのだろうか?本当に帰られるのだろうか、帰られる者だけが帰ればいいのか、自己責任ってどんな事を言うの?何処までが自己責任なの?リスクがあるからこそ、私達を安心して帰られるよう守って欲しいのに。みんなで一緒に帰られる方法ってないのだろうか等々、なかなか考えがまとまらないまま、本当にもやもやとした気持ちを抱きながら三宅島への日帰り帰島となった。

家路へと向かうバスの窓から眺める途中の風景、立ち枯れて白樺のようになっている木々、屋根がすっかり錆びてしまってい

る家等、胸が痛む。バスから降りて我が家へ急ぐ。大事にしていた植木類は枯れてしまっているのに、茅、雑草だけは元気に根を下ろして私を迎えてくれた。雨戸を開けて戸を開け、家の中に風を入れた。都会では味わえないこの風の流れが心地よく、家の中を通り過ぎて行く。今回は村からの調査も最近あったりしたので、家電製品のチェック等をするつもりでいた。村から借りてきたコンセントを使って、テレビをつけてみたが電源の明かりがつかない、エアコンもソケットを差し込んでみても動かない。でもこれは素人の私のチェックでしかない。

東電の配線の調査は、以前やってもらったように記憶している。その他、家の中の設備等は、いずれ専門の人に点検をしてもらわないとわからないし、生活するのに安心できない。修理したり、交換したりこれから生活できるようにするには、経費面でもどれくらいかかるのか、わからないし見当もつかない。

自分で安全対策も考えないといけないとしたら、まず具体的にどの様な事をしなけ

ればいけないのかも手探り。これから考えなければいけない事、やらなければいけない事等が、色々と押し寄せてきている。自分の気持ちの中が整理出来ないまま時間も過ぎて行くような気がしてならない。

今朝の新聞で、福永副知事の言葉を目にした。「島民が避難生活を続けてきた努力に行政が応えられるようにしたい」と記者に語ったとの事。「自己責任」が心の奥に突き刺さっていただけにこの言葉に、私の気持ちも多少は和らいだかに思う。

今日港区で開催される防災講演会「まちの安全は日頃のネットワークから」。こんなチラシを目にした私は、早速この講演会に参加するつもりでいる。帰島問題に悩む自分になにかヒントが得られるかも知れない。今自分に出来る事は、これから生活していく上で自分に与えられた環境にどう対応していけば良いのかを常に前向きに考え、行動できる様に、研鑽に努める事だとも思っている。それには心身共に健康でいたい。

(港区港南 早川 マス子)

三宅村役場より

住民説明会の開催決定！

三宅村では帰島に関する説明会を下記の日程で実施します。

今回の説明会は、7月に発表された「帰島に関する基本方針」をもとに開催するもので、安全確保対策や帰島後の安定した生活の確保など、帰島に向けて村が進めていくさまざまな対策について説明します。みなさまお誘いあわせの上、ご参加ください。

日 時		会 場	
9月18日(土)	13:30	新宿	都庁第1庁舎5F大会議室
	18:30	立川	女性総合センターアイム1Fホール
9月19日(日)	13:30	八王子	南大沢文化会館主ホール
	18:30	北区	桐ヶ丘郷小学校体育館

お問合せ：三宅村帰島対策課 TEL：03-5320-7825

帰島前健康診断の日程について

8月20日付けの文書にてお知らせしているとおり、広報みやけ9月号に掲載されている会場以外に、飯田橋元気プラザでの帰島前検診も予定通り実施します。

		実施日						
		月	火	水	木	金	土	日
9月	13	14	15	16	17			
		21	22		24			
	27	28	29	30				
10月					1	2	3	
	4	5	6	7	8	9	10	



千代田区飯田橋3-6-5

JR 総武線 飯田橋駅下車 東口徒歩1分

東京メトロ(旧営団地下鉄)有楽町線・南北線・東西線、都営大江戸線 飯田橋駅下車 A2出口すぐ